

私費で**子ども図書館**をつくる**安藤忠雄（建築家）**

次世代を担う子供達が、本を通じ、想像力や好奇心を高めてほしい！

終活ではなく**継活（次世代に繋がる活動）**を続ける

次の世代に受け継がれるものを作りたい！ 社会に恩返し！

20221224

世界的な建築家・安藤忠雄さん(81歳)は「**五臓**」がない。
60代と70代に2度のガンを患って、胆嚢・胆管・12指腸・脾臓・膵臓を摘出した。大病後の日常生活は毎日、1万歩歩き、一日六度、血糖値をはかり、昼は一時間休み読書をし、体調を整えている。

安藤は**20代前半に読書の面白さを知った**。数々の本から得られた内容は自らの想像力や好奇心が刺激され、自分の生き方に大きな影響を受けてきた。**子供の頃、得た読書からの刺激・影響は大きい。**

子供のころから読書に慣れ親しむと、想像力や好奇心が旺盛になる。あれも面白い、これも面白いという世界が増えると人生が豊かになる。

本当の幸せは、お金や物を得るよりも、自分の求める夢や目標に対し、懸命に向かっている、自分の無我夢中の時間の中にある。……と安藤さんは言っています。

更に、安藤さんはシニアに対し、**好奇心と体力を持ち続ける努力**が大切だと訴えています。

建築家・安藤忠雄氏からの寄付で誕生した文化施設が大阪・中之島、岩手・遠野に続いて神戸にもオープン。本は、神戸市オリジナルの分類で15のテーマで展開され、神戸と震災に関する本をはじめ、絵本、児童文学、図鑑、アートブック、海外の本など、世界の多様さを伝えるラインアップを用意

本を読み、人と出会い、志を持つ。
志を持った者同士なら、すぐに繋がる。
そして、良い関係や仕事が生み出せる。



こども本の森・神戸 <concept>

1. 命の大切さと震災の教訓の継承
2. 公園の自然の中から生まれる好奇心
3. 自由な空間と体験で育む創造力
4. 神戸の歴史・文化との出会い
5. 世代間とウォーターフロントへのつながり

約束を守り、
嘘をつかない、

自分の信念を貫け、
自分の納得する
人生を生きる。